

私は今回の台湾研修旅行を通して、様々なことを学びました。台湾は日本と同じアジアで台湾は親日国として知られているということもあり、台湾に行くまでは、日本と似たところが多く、過ごしやすくあまり海外感が少ない場所なのではないかと思っていました。そして台湾は沖縄県に近いということで、半年ほど前に沖縄に行っていたので、フライト時間や気候、雰囲気などは同じなのではないかと思っていました。しかし実際は想像とは違う点が多く、やはり現地に行かなくては分からないことがたくさんあるということを実感させられました。そこで私が現地で体験し、学んだことや体験した事を紹介していきたいと思います。

台湾料理

台湾料理は中華に近いものだと思っていました。しかし中華っぽいところもあるのですが、中華とは全然違い、今まで食べたことのないようなものがたくさんでした。1番衝撃を受けたのは緑茶を注文すると砂糖が入っていてとても甘かったことです。日本の緑茶を想像して飲んだため、暑く冷たい飲み物が嬉しかったので勢いよく飲んでみると、今まで飲んだことのない味がしました。緑茶の味より甘い味が強く、お茶ではない謎のすごく甘い飲み物を飲んでいるようでした。甘いものがあまり得意ではない私は、それを飲むことができず、今でもその味を忘れることができない衝撃的な体験となりました。この甘さは、台湾は気候が暑いので、糖分を摂取しなくてはならないからではないかと思いました。

1番美味しかった食べ物は3日目に新光三越南西店の鼎泰豊でいただいた小籠包です。



最初つける酢醤油の割合を聞いた時に酢の割合が多すぎるのではないかと思い、少し抵抗感がありました。しかし食べてみるとすごく美味しくて、今では日本で酢醤油を作る時も以前より酢の割合が多くなりました。こちらの小籠包は日本国内でも販売されていることや定番料理であることもあり、すごく食べやすい味となっており、今後知人に台湾でおすすめのお店を聞かれたら絶対に教えようと思えるお店でした。そして当店は食べるだけでなく、小籠包を作っているところを見学することもできました。小籠包を日本で何度か食べたことはありましたが、作っているところを見たのは初めてだったので、有名店の本場ならではの体験だと思いました。

そして台湾に来て人生で初めて食べたものが北京ダッグです。



もともと私はチキンが大好きなのですごく楽しみにしていました。しかしその味は想像以上ですごく美味しくて、次から次にパクパクと食べられました。皮にチキンとたれをのせて巻くスタイルということを知らなかったなのでそのことも衝撃的でした。



北京ダッグとして最初に出てきたアヒルさんを見た時に、頭がそのまま毛もついていて「このまま出てくるの?」と言ってしまふほど衝撃を受け少し引いてしまいましたが、お肉を切って出していただくと全くそのことを忘れるくらい美味しそうでした。

台湾での食事でよく同じような香辛料のような味を感じたので気になって調べてみました。最初は癖が強く苦手だなと思っていたのですが、最後には美味しいと感じました。その香辛料の正体は“八角”というもので、日本だとタミフルに使用されているため、薬臭いと日本人は感じやすいそうです。ルーローファンやルーウェイなどの台湾料理で多く使用されており、独特のにおいもするので、台湾のご飯屋さんやコンビニでも同じようなにおいがしたことに納得しました。こういったところで国による食文化の違いが出てくるということを実感することができました。

実践大学への大学訪問

今回の研修旅行で台北の実践大学というところに訪問させていただきました。今回は実践大学の中の、デザイン学科の衣装デザイン科とメディアコミュニケーションデザイン学科への訪問をさせていただきました。私自身北翔大学で芸術学科服飾コースに所属しているので、今回は衣装デザイン学科への訪問を通して感じたことをお伝えしようと思います。

まず1番に感じたことはすごくきびしいということです。やはりコンテストに出展したり、たくさんの数の作品を作るとなると、徹夜での作品作りや宿題がたくさん出るのも納得ですが、自分にはそれをこなせる自信がないと正直思ってしまいました。そこでまず実力の差を感じてしまいました。数々のコンテストで実践大学の学生さんが入賞している作品を見てお話を聞き、やはり努力なしではよい作品は作れないということを実感しました。

そしてもう1つ実感したことは、生徒全員がスケッチブックを持っていて、そのスケッチブックにアイデアやデザインを描いていると聞き、私たちは今までテーマに縛られ自分の作りたい本来の作品を作ることができず、そのように思いついたデザインを描くという機会もありませんでした。しかし自分の本当に作りたいお洋服を作ることによって創作意欲がわくとともに、完成した時の喜びも大きいのではないかと思ったのです。だから私もいつ作れるかわからないけど、もっとこういうお洋服を作りたい、こういう生地を使いたい、など意欲的に考えるとともに、これからもっと作品に自分らしさを出せるようにしていきたいと思いました。

西園 29 服飾創作基地への訪問

台北市と繊維協会が5年前に設立した西園29服飾創作基地というところに訪問させていただきました。建物の外観からこだわりがあり、1階のshopは木の幹をイメージし、お洋服を80%アクセサリーを15%その他5%の割合の販売をしているそうです。こちらに所属しているデザイナーさんが材料を100%台湾のものを使い制作されているということにすごく衝撃を受けました。すごく素敵なものが多く、私もこちらで妊娠中の友人への出産祝いを購入しました。台北市も協力しているということもあり、とてもリーズナブルな価格帯で、上質なもののなのに購入しやすく、日本でもこういった政府が協力し、若いデザイナーを育てていくことをもっと積極的に取り組むべきだと思いました。日本では若手を育てるというより、今いる優秀な人をピックアップしているように感じます。未来を見据えて若手を育てることは、今の日本にあまり影響を与えないと思われるかもしれませんが、私は今回の西園29服飾創作基地への訪問で、台湾に対してすごく好印象を抱きました。このように日本も好印象を持ってもらえるきっかけとなるとともに、若い才能は世界からも注目を集めることができると思います。だから日本はもっと若手育成に積極的になるべきではという考えが、台湾に来る前よりも非常に強まりました。

2回の製作所を見学して思ったことは、まず見たこともないお洋服を制作する器具がたくさんあったことです。主にミシンですが、変わった形のものなどがあり、特にスポーツウェア用のミシンがあるということに衝撃を受けました。さらに手作業で1つ1つ丁寧に制作されており、きっとすごく良質なお洋服なのだろうとワクワクしながら見ることができました。こちらでは毎年約40人の若手デザイナーが入るということで、狭き門を入れてからも、たくさんのデザイナーがいるということは闘争心が芽生えいい刺激となるのではと

思いました。ブランドの立ち上げ等までバックアップして下さるということで、本当に何から何まで手厚い支援をされていることに衝撃を受けました。若手ということで賭けもあると思いますが、現に約40人中半分の約20人が自身のブランドを立ち上げており、残りの約20人は西園29服飾創作基地が紹介した他企業で活躍しているということで、きちんとその後も活躍しているということは、支援の手厚さが影響しているのではと思います。

士林夜市

台湾といえばというくらい有名な夜市、行く前からすごく楽しみで、ガイドブックにもたくさん載っていたり、Instagram で検索するとたくさんの美味しそうだったり楽しそうだったりする写真が出てきて今回の研修旅行での行先で1番理解して挑むことができた場所ではないかと思います。士林夜市内でもたまたま同じ時期に旅行で来ていた友人に会ったり、話しかけてきた人が日本人だったり、日本人がたくさんいるなという印象を受けました。においは少しきついですが、価格が安く美味しいものがたくさんありました。SNS 映えするようなものもたくさんあり、Instagram にたくさん写真を載せました。



ここでも八角のにおいが結構したので、本当に台湾では様々なところで使用されているのだなということを実感することもできました。札幌に住んでいると、大きいお祭りはなかなか無いし、中島公園のお祭りのようなものを想像していたのですが全然違って、食べ物だけでなく、お洋服屋さんや、ドラッグストアもあり、立ち寄った靴屋さんではすごく安くて、すり対策でクレジットカードを持たず、現金も必要最低限しかもっていなかったことをすごく後悔しました。食べ物ばかりを調べてしまっていたので、もっときちんと隅々まで調べることが大切だなということを実感しました。毎日こんなお祭りがやっているなんて私ももしここに住んでいたら週3で行ってしまうのではないかと思ったくらい賑やかで楽しく、台湾らしさを感じることもできた場所となりました。



他にも様々な所に行き、貴重な体験をさせていただき、色々なことを感じ発見することができました。今回の旅行の反省点はまずは言語の壁をすごく感じたという点です。中国語を履修し半年間学び、旅行前にも復習しそれなりに会話ができるつもりでいましたが、実際に会話しようとしてみるとうまく言葉が出てこない、会話にできない、言いたいことがうまく言えないという事態になってしまい、結局ほとんど英語を話していました。日本語が少し通じるところも多く、日本語と英語を混ぜて使っていれば過ごすことができ、中国語を頑張ろうとしなかったことも反省点です。しかし見た目からか1人である時に限って英語で話しかけられることが多く、コミュニケーションが苦手さらに英語も最低限の会話レベルしかできない私はすごく戸惑ってしまいましたが、1人だから誰にも頼れないという状況と、なぜか英語のほうが頑張らなくてはいという気持ちが芽生えることもあり、現地の方とコミュニケーションをとることがたくさんでき、台湾の方々の優しさにたくさん触れることができました。道に迷ってしまった時も、道を尋ねると尋ねた相手の人だけではなく、その周りの人たちまで心配して協力してくださったりして、本当に台湾の方々は優しいのだなと感動しました。正直海外の方から見た日本人はお金持ちそうなどの印象を持たれやすく、詐欺にあったりすることが多いのではと思っていました。しかしそんなことは全くなく、知っている日本語を話してくださったりして、私は今まで偏見を持っていたのだなと思いました。しかし、他の国の方もそうとは限らないので、今後海外に旅行に行く際も海外の方は優しいという考えと、騙されるかもしれないという考え両方を持って行きたいなと思いました。

今回の研修旅行はきっと個人的な旅行では行かないようなところばかり行けたので、また今度個人的な旅行で別な角度から見た台湾も見てみたいと思いました。そしてもともと旅行が大好きなので、今まで国内旅行ばかり行ってきましたが、海外旅行にも積極的に行ってみたいと思いました。そして日本にいただけでは感じることをできないことを様々な国でたくさん感じたいです。今回台湾研修旅行に行けたことを本当に嬉しく思います。お世話になりました。ありがとうございました。